

日常異変 コロナの私 (6)

環境激変を乗り越える知恵を模索

最近、インターネット書店で紙の本の品切れが増えていることにお気付きの方もいらっしゃると思います。緊急事態宣言で多くの方が「巣ごもり」を強いられる中、例えば大手 EC サイトの Amazon では書籍の追加搬入を停止しているそうです。「生活必需品のネット注文が大幅に増えて物流の現場がパンクしているから」というのが理由で、実際にそうなのですが、この機会に自社の電子書籍 Kindle を普及させたいという思惑も感じられます。いずれにしても、Amazon にかぎらず各インターネット書籍への在庫補充は滞っており、街の書店も休業中のところが多く、紙の本を売る場所が激減しているというのが現在の出版業界の状況です。

売場がないのですから、出版社は新刊を不用意に刷ることはできません。私が年明けから今日までに脱稿した 3 冊分の書籍原稿も当面の刊行延期が早々に決まりました。中には執筆に年単位の時間をかけた本もあり、ようやく原稿をあげたのに編集者と打ち上げもできず、達成感や解放感がまったく得られなかったことには、なかなかつらいものがあります。編集者に渡した原稿はいずれ本になるはずですが、とはいえです。物流が回復して街の書店が営業を再開しても、おそらく本の売り上げは落ちたままなんじゃないかと思っています。反動増のようなものはこないでしょう。

過去に今と似たような状況がありました。2011 年の東日本大震災です。当時、私は神保町の出版社で編集者をしていました。2 月 13 日に刊行した編集担当本『「はやぶさ」式思考法 日本を復活させる 24 の提言』（川口淳一郎、飛鳥新社）は、2 月 25 日に 2 刷、3 月 3 日に 3 刷と順調な初動を見せ、「このままベストセラーに持って行くぞ！」と息巻いていたのですが、3 月 11 日に東日本大震災が起きて動きがパタリと止まってしまいました。再び動き出してようやく 4 刷に

なったのは翌年の2月。つまり、非常時に本なんてものは売れないのです。おそらく今回もそうでしょう。外出自粛要請を受けて家で過ごす時間が長くなったところで、多くの人は「本でも読もうか」というマインドにはなりません。日々接する新型コロナウイルス関連ニュースだけで情報の摂取過多となっているはずで

中国の武漢からはじまり全世界に拡大した新型コロナウイルスの災禍は、直接的に1万6000人以上の日本人が亡くなったあの震災とはまた性質の異なるものですが、経済に与える負インパクトはあれに匹敵するか上回るものになるだろうと感じています。世界と日本の経済がどうなるのか。人々の消費マインドはどうなるのか。書籍という「モノ」をつくって売って、それでたつきを得ている人間として、今後が非常に気がかりです。

——と、ただ家の中で先の心配をしても仕方がないので、私もこの期に及んでは、少なくとも緊急事態宣言が出ているうちは「普段やれなかったこと」に取り組むよい機会だと割り切ることにしました。家にこもっていると入ってくる刺激が少なく、これは心身の健康によくないので、意識して新しいことをやるということです。そもそも、新企画に取りかかろうにも、本は買えないし、調べ物をするための図書館や博物館は軒並み休館中ですし、取材や喫茶店での打ち合わせは3密のためできません。今は出版社も開店休業中のところが多いですから、不自由な中で無理にガツガツと原稿を書かなくてもいいでしょう。

今もっともやりたいことは久しくできていなかった趣味の魚釣りですが（このような事態でなければ、直近の原稿をあげた後に香川県に釣行する予定でした）、不要不急の外出は自粛しないといけませんから、自宅で以下の三つのことに取り組んでいます。

（1） 学術論文の執筆

私が学生時分に大学でやっていた寄生虫の研究にまだまだ新規性があるようなので、論文にして雑誌に投稿しておくことにしました。出版の仕事をはじめてから忙しさを理由に放置していたデータですが、構想研の第151回研究会で「日本の論文数が減っている」という話を聞いて大いに反省をした次第です。

（2） ピアノを再開

弾かなくなって20年近くになりますが、この機会に練習を再開することにしました。脳のシナプスが失われてまったく弾けなくなっていました、それを一か

ら改めて繋いでいくのはそれなりに楽しくて、よい気分転換になっています。

(3) 次の企画に向けた仕込み

新企画のアイデアはありますので、積読本の消化も兼ねて材料のサーベイをばちばちとやっています。



写真左は 2016 年、第 3 回全北陸空手道選手権大会・一般男子初級の部で優勝、右は 2017 年、第 7 回新極真会総本部錬成大会・シニア男子 30'S 重量級チャレンジの部で優勝

あと、筋トレですね。新型コロナウイルスが流行する前は、体力を維持するために週に数回、空手の道場に通っていましたが、緊急事態宣言を受けてその道場が閉鎖されてしまいました。

外出の自粛をはじめから手元の AppleWatch が「お前は運動が足りていないぞ」と告げてくるようになったので、今は自宅の玄関横に設置しているチンニングスタンドの前を通るたび、懸垂をするようにしています。

何をするにしても体力がないとダメです。文章を書くのもそうで、集中力だけではわりとすぐに限界がきます。外出ができなくなって運動の機会が減っている今、もっとも意識して維持しなくてはいけないのは体力ではないかと思います。

年が明けたころは社会の様子がここまで変わるとは思ってもいませんでしたが、その時々状況に適應していくしかありませんね。そのうち、よいこともあるでしょう。それでは、また。

大谷智通